

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1170800807		
法人名	有限会社 新生・ケア・コミュニティー		
事業所名	グループホーム オ・ハナ		
所在地	埼玉県越谷市弥栄町3-43-189		
自己評価作成日	平成25年2月28日	評価結果市町村受理日	平成24年4月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/11/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=1170800807-00&PrefCd=11&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社シーサポート		
所在地	埼玉県さいたま市浦和区北浦和3-6-9		
訪問調査日	平成25年3月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

4名の介護支援ボランティアの方たちが継続して来訪されていることにより、入居者の方たちの状況を職員と共に温かく見守って頂いています。
 継続した来訪により、オ・ハナの理念を理解して頂きながら、入居者、職員との関係も構築されています。また、今年度は運営推進会議を通じて、包括支援センター、ボランティアの方々・自治会で交流した方々・御家族がより深くオ・ハナを知って頂く機会を持ってと思っています。
 また、オ・ハナは、働く職員が自分の親もしくは自分が高齢になったら、『入居させたい、入居したい』と思えるようなホームでありたいと、職員一人ひとりが今できることを積み重ねています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

○ホームの名前である「オ・ハナ」とはハワイ語で「家族」を意味している。その名のとおり、管理者・職員が助け合い、入居者の穏やかな生活を見守っている。また運営推進会議の開催・地域の方々も参加した防災訓練の実施・ボランティアの方々の協力的な継続した取り組みにより「家族」を「助け合う集合体」へと拡大・進化させている。手作りの温かさをはぐみ続ける数少ないグループホームの一つである。○毎日の様子を書き綴り家族に渡される「オ・ハナだより」・丁寧な見守りと声掛けなど職員による多くの温かな支援には家族の信頼と感謝が寄せられている。その継続した努力と配慮には敬服の念を抱かずにはいられない。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『オ・ハナはもうひとつの家族』という意識で、入居者、職員がお互いに心配事や思いを汲み取る状況があり、職員間もお互いを思いやりながら日々過ごしています。	ホームの名前である「オ・ハナ」とはハワイ語で「家族」「助け合う集合体」を意味している。その名のとおり、管理者・職員が助け合い、入居者の穏やかな生活を見守っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の夏祭り・文化祭・防災訓練に毎年参加させて頂いています。今年度は、近隣の方も含め、ボランティアの方たちと合同で消火器の使い方や避難誘導を行いました。また、夏の食事会・クリスマスパーティーを介護支援ボランティア・入居者家族と共に盛大に行いました。	地域の防災訓練への参加・ボランティアの訪問など地域の方々との交流が深められており、温かく崇高な理念とこれまでの実績が地域の支援を引き付けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の一環として、行政書士の方を招き、成年後見人に至る前の段階として『遺言書の書き方』を皆さんと一緒に勉強させて頂きました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	常に入居者の皆さんの状況や様子を見て頂ける機会として、運営推進会議を開催しています。その場で率直な意見をお伺いし、意見交換で出た情報はミーティングで共有し、更なる支援の向上に努めています。	地域包括支援センター、ボランティア、地域の方々を招き、定期で開催がなされている。参加者から「食事会をしてほしい」とのリクエストがあるなど親密な関係が築かれようとしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の連絡協議会やGH部会の参加を通じて、他のGHへの訪問等、職員も含め相互に協力しながら、GHの運営向上にも繋がるよう連携を図っています。GHの空き情報も共有し、現状等の報告も行っています。	行政ならびに市内のグループホームが協調しあい、市民の福祉に貢献するよう積極的にグループホーム部会での活動を行っている。市内のグループホームへの訪問や来訪が実現している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠は行わない介護を行うことを職員と常に考え、新しい入居者の徘徊等の対策も見守り方などその都度考え意見交換しながら、精神的・身体的拘束を行わないことを実施しています。	玄関・居室の施錠を行っておらず、職員の丁寧な見守りにより身体拘束を行わない介護を実践している。	夜間帯を考慮した玄関の態様について、入居者の安全とのバランスを考えて改良していくことが検討されている。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修の参加やミーティング等で意見を交換しながら、全職員が虐待予防の意識をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議で『遺言書の書き方』を開催した後、成年後見人制度を申請実施する御家族がおられました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約及び改定の際には御家族とゆっくり話し合える時間を配慮し、不安や疑問点をお聞きしながら理解して頂けるようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族とは来訪時の際には職員からお声がけさせて頂き、相互で気軽に話し合える状況を作り出せるような、関係作りになれるよう職員一同が心掛けています。また、御家族との連絡も含めメールでの対応もしています。	面会時には家族ともコミュニケーションを図るよう努めており、またメールも使い、報告や連絡が行われている。ホームの丁寧で温かいケアに対して家族からも感謝と信頼が寄せられている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	実情を踏まえ、ミーティングの際に全職員に意見を聞くよう態勢を心掛け反映させています。	職員同士のチームワークを大事にしながらミーティング等で話し合いが行われている。備品の補充や製作活動について相談や意見交換がなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業時間や勤務の要望等その都度、話し合う機会を設け、職員の希望に沿った状況に配慮しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数に応じたリーダー研修や外部研修を通して、技術や知識の向上を目指し、ホーム内のサービス向上に繋げると共に職員間で共有できるよう次世代の育成に取り組み始めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のGHへの訪問を職員が行ったことにより、一層交流を深める機会となりました。また部会で各GHの空き情報を共有したことにより、職員の意識も他のGHの状況や特色を知るきっかけになったと思います。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始にあたっては、これまでの生活歴を把握し、ゆったりとお話を聞く機会を作り、ご本人の不安を軽減できるよう信頼関係を築けるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族の同居の有無に関わらず、御家族や親族からの電話・携帯メール等いつでも気軽に相談できるよう、不安や要望を聞くよう配慮しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学时、御家族とご本人の要望を把握し、他のサービスを踏まえ、サービス情報と支援をお話させて頂いています。また空き室があったので、体験宿泊を実施しました。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で「できること」「できないこと」を見極め、入居者一人ひとりにあった活躍の場で、ご本人の充実感に繋がるよう取り組んでいます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームの行事や往診の立会いは勿論、普段の来訪でもご本人との面会を大切にしています。訪問時の相談や要望を気軽に声をかけて頂けるよう御家族との関係作りに努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前のからの友達関係やいきつけの美容院を利用するなどご本人の希望に添って馴染みの関係が継続できるよう支援しています。	友人やボランティアの方々の来訪などにより家族以外の方との関係性の構築にも努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	定期的な介護支援ボランティアの方の来訪により、ゲームや創作などのレクリエーションを楽しんだり、日常生活においては、炊事・洗濯など、入居者の得意分野を見極め、入居者同士が協力して行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの終了に至ってはその後の相談など小まめに対応し、御家族の不安軽減に努めています。また、ボランティアとして御家族に継続的に協力を頂いたり、他施設へ転居された方へは年賀状の交換や訪問も行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の生活歴でご本人の意向や要望を把握し、定期的なミーティングで情報を共有し、日常生活においても会話や雑談を通して表情・思いを汲み取るよう心掛けています。	入居者一人ひとりのそれまでの人生を振り返り、その人を知ることをもって支援することに努めている。また書式を変更するなどアセスメントについて注力がなされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御本人・御家族・ケアマネージャーから情報を収集し、入居前の暮らし方や利用していたサービス及び医療機関への受診等継続的に支援しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者個々の24時間記録と日々の様子を観察し、心身状態の変化等を把握するよう努めています。状態変化が見られた場合は、別途2号用紙に記録すると共に申し送りを通し、継続的な支援ができる様に取り組んでいます。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人の希望を優先に考え、御家族の要望及び往診医の助言をもとに職員の意見交換を行い、朝夕の体操や合唱で声を出すことにより嚥下機能の低下防止を介護計画に反映させています。	細かな項目によるモニタリングを経て、日常生活の場面ごとに援助内容と評価を定めた計画書が策定されている。また家族の意向についても反映できるようヒアリングに努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の気づきや変化を個別の24時間記録と日々の様子を観察し、申し送りを通して情報を共有し実践に努めています。また、ミーティングの中で見直しを行い、必要に応じ介護計画に取り入れています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御本人や御家族の意向に関わらず、状況に応じて御家族やご本人と将来を見据え、話し合う機会を設けたり、制度利用の為に医療機関へ受診するなど付き添う場合もあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	浴室の改修時には、入浴するために地域の老人センターを利用させて頂きました。また、通年ペットボトルのキャップを収集し、地区センターへ散歩をかねて入居者の皆さんと出かけています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の内科医、週1回の歯科医の往診を行い、年1回は御家族が往診に立会い、身体状況の確認、今後の希望、相談に対応しています。また、入居者の状況によっては入居以前の主治医に継続受診しています。	医師・歯科医師による往診や訪問看護を利用・連携しながら入居者の健康維持に努めている。「オ・ハナだより」には毎日の様子や体調が記され家族に渡されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が週1回来訪し、日常の利用者の状況を職員と共有し、状態に応じて助言や主治医への連絡調整を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際にはADL表を入院医療機関に情報提供し、退院時には御家族と共に医師からの情報を確認し、主治医に連絡調整を行い、速やかに受け入れられるよう体制を整えています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期ケアに向けては、御家族、医療機関との連携を図っています。ケア中の事故や急変で重度化及び医療処置が必要になった場合、御家族に報告、重ねて主治医からも詳細に説明させて頂いています。終末期を見据えたケアを継続させることにより、御家族への理解に繋がるよう努めています。	重度化と終末期への対応については、家族・主治医と話し合いながら方針の共有に努めている。職員への負荷についても助け合いと配慮をもって取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルと緊急時連絡網を備えており、医師には24時間いつでも連絡が取れる体制となっています。入居者の異常を感じた時には血圧測定と共に主治医や看護師に連絡を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度は運営推進会議を通じて近隣の方と通報訓練、避難誘導、消火器の使い方を実施しました。そのことをきっかけに、地域の方との支援協力が拡がりつつあります。	火災報知器・通報装置が設置されている。また地域の方が参加した防災訓練が実現している。スプリンクラーの設置についても検討が重ねられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員との会話の中で、ご本人の意思がはっきりと言える環境をつくることも重要なことなので、ゆっくりと確認しながらお話をします。更に入浴や排泄介助においては1対1で行うなどご本人の自尊心を傷つけないことに配慮しています。御家族やご本人のプライバシーに関わることは、ミーティングにおいても確認しています。	大きな声を出さないよう配慮したコミュニケーションが図られている。職員との楽しい会話によりホームは優しい雰囲気にも包まれている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の言いたいことを他の方に伝えられない状況があった場合は、さりげなくサポートし、自己決定ができなくなってきた方には、2択で聞くなどどちらかを選べるような言葉かけを行なっています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護支援ボランティアの方と過ごすことも多いのですが、その日の雰囲気も大切にしています。一緒に製作物を作る過程にあっても一人ひとりのペースで行なえるよう支援しています。また、出来上がったものを見て、一緒に喜びを共有しています。また眠たい時には居室で休むか、和室で休むかなど聞きご本人がいたい場所で休んで頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服は一緒に選ぶようにしています。出かける用事や御家族の来訪なども伝え、楽しみながら支度ができるようにしています。また、ボランティアの方に髪をカットして頂いた時には、必ず写真を撮り、鏡を見て意識して頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の献立作りから入居者の方と行っています。おひとりづつ食べたい物を言ってもらい、どうやって作るかなど皆さんに参加してもらいながら、一緒に下ごしらえや調理を行っています。	毎日の食事やおやつは入居者と一緒によく作られ、アットホームな食卓となっている。家族の来訪時に一緒に食べていただくこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量が1日を週して確保できているか個別に記録しており、食事量や水分量が少ない方には、好みのもので摂取して頂けるよう支援しています。必要に応じて、医師の指示の下、栄養補助剤で対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入居者一人ひとりに応じた口腔ケアを支援しています。また、週に1回、往診歯科医と歯科衛生師による口腔ケアを行い、職員は指導を受けながら夕食後には義歯の消毒を実施し、歯間ブラシを使い残菌の保持ができるよう継続して支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握して、できるだけトイレで排泄できるように早めのトイレ誘導を心がけ、間に合った場合は喜びを共感するなどプライバシー・主体性に配慮した支援も心掛けています。一方、身体機能の低下や体調により、リハビリパンツ・オムツの併用を必要とする入居者もいます。	記録・パターンの把握により自然な誘導に努めており、一人ひとりに合わせた排せつの支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者お一人おひとりの24時間の排泄パターンを把握し、往診医・看護師の指導・助言を頂きながら、服薬・繊維質の多い食材や乳製品等を組み合わせ献立の工夫、適度な運動を生活に取り入れています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	前年度の浴室改修によって採光もあり、浴室は広く、目に優しい色使いで、入居者の方々にも喜ばれています。浴槽は広くゆったりとした設計で入浴時には職員と会話しながら思わず長湯になってしまうとの言葉も聞かれます。	改築により明るく清潔な浴室が用意されている。浴槽が広くなり、「のんびりと・楽しめる」入浴の時間が提供されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者のその時々状況に応じて昼寝をすることもあります。就寝時は照明の明暗も個々に応じて対応しています。季節に応じて冬は湯たんぽ、電気毛布、アンカ等、夏はジェルシートの使用など御家族の協力もあり、気持ちよく眠れるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者一人ひとりの服薬の目的や副作用、用法、用量について把握し、与薬は飲み込むまで確認しています。体調の変化は、往診医や看護師に指示を仰ぎ支援に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人ひとりの身体レベル・得意分野に応じて声かけを行っています。無理強いせず、今やりたいと思う気持ちを大切にしています。また、美容院でヘアカットやカラーリング等好みの髪型ができるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日中は状況に応じて散歩・買い物など外に出る機会を持てるよう心掛けています。御家族や介護支援ボランティアの方にも一緒に外出できるよう協力して頂いています。しかし、入居者の入退所が重なり、入居者の気持ちの安定を重視した支援に留まっており、外食へのタイミングを図っています。	家族やボランティアの協力のもと、散歩・買い物・外食・お花見など様々な機会を利用し、工夫しながら外出が楽しまれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族の了解の上、お金は事務所で管理していますが、ご本人が欲しいものや足りない物などは御家族に事前に連絡し、職員と共に買い物時に購入できるような支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の方が家族や知人に伝えたい事がある場合は、電話をかけて話しができるよう支援しています。また、介護支援ボランティアや職員と一緒に作り上げた暑中見舞いやクリスマスカードも御家族に送付し喜ばれています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	昨年度は浴室の全面改修を行いました。今年度はソファやテーブル・椅子の配置を工夫し、入居者同士の相性やリラックスできるような空間作りを行っています。介護支援ボランティアの方たちの協力により、季節ごとの製作物がホーム内を飾り居心地の良い空間になっています。	入居者がつくった大きな製作物や写真がリビング・廊下に飾ってあり、自分たちの家として認識できるよう配慮がなされている。職員と入居者が和やかに会話する空間は、真に「家庭」の雰囲気となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者の方々のやりたいことを優先していますが、介護支援ボランティアの方たちと過ごす時間も多く、むしろ入居者の方たちは来訪を楽しみにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者によっては馴染みの家具や自身が製作した木目込み人形を飾るなど自分の居室として楽しんでいます。一方、入居時から認知症の進行が顕著にみられ、自分の物である認識が著しく低下していることで持ち込まない御家族もいます。	掃除の行き届いた居室は、「休んだり・家族と過ごしたり・手紙を書いたり」と思い思いに過ごすことができるスペースになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	これまでの入居者の方と新規入居者との認知症の度合いに差があり、一人ひとりに合わせた「誘導・声かけ」を行い安全に生活できるよう支援しています。		

(別紙4(2))

事業所名 : グループホーム オ・ハナ

目標達成計画

作成日 : 平成25年4月10日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	夜間は施錠していますが、内側からの上下の開閉式のため、ご本人が徘徊の様相がある際、鍵を開け引き戸を持ち上げ、外に出てしまうことがあった。	入居者の安全を第一に考え、引き戸を持ち上げても開かないよう鍵の検討を行う。	業者に相談し、現在の引き戸のまま、夜間帯のみ二重に施錠できるよう、新たな鍵を引き戸の上部に設置し、鍵を職員が持ち、開閉する方式にする。	1ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。